

令和6年度 学校目標評価（最終評価）

学校評価委員会

※評価は各部署による最終評価

領域	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	計画の実施・評価の主担当者・評価の方法他	目標達成のための取り組みの状況
教育活動	全般	生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援 「自治の校風」の具現化に向けた活動の保障と指導助言	【4.1】	教務部・生徒部(生徒会) 進路指導部・学年・教科	・今までなかった振替休日や計画休業を設定し、生徒の自由時間を確保した。(教務部) ・本校での生活で体験する様々なことが、生徒自らが自分の人生(進路)について前向きに考える何よりの契機になっていると考え、支援した。(進路指導部) ・とんぼ祭での模擬店実施に向けて、食品衛生及び感染防止対策に関する相談に乗るなど、関係生徒の支援を行った。(家庭)
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う 探究的な学びの推進	【4.2】	教務部/進路指導部 学年/教科/研究部	・上記と重なるが、学習活動・進路選択等全てにおいて、本人がいつかやる気になるか、にかかっており、その一番の契機となるのが学校生活であると考え、支援した。(進路指導部) ・観察・実験に取り組みを通して、自然現象への興味や関心を高めるとともに、科学的に探究する力を養った。(理科) ・日常の問題解決を意識した課題に取り組みことで、日常生活でも授業の内容を活かすことができるよう意識して行った。(情報) ・プログラミング課題では、webサービスを利用することで、自宅でもタブレット等を利用して継続的に課題に取り組み環境を整えた。(情報)
	探究的・批判的な学びを深める	総合的な探究の時間を通じた探究心の涵養 教職員全体での探究的な学びの推進 企業や大学、外部人材と連携したキャリア教育の充実	【4.5】	探究キャリア教育部 図書部	・本校における探究的な学びとは、について職員間での理解を深めた。その共通認識をもとに、探究学習における具体的な学びのの中身を継続的に吟味していきたい。学校、机を離れ探究学習がキャリア選択、生き方探しの一助となるような仕組みを充実させていきたい。(探究キャリア教育部) ・図書館ゼミやとんぼ祭講演などを通して、教科や学年に関わらず学びを深めさせた。(図書部) ・探究活動もまた学校生活での経験であると考え、支援した。(進路指導部) ・企業の提供する教材を使用するなど工夫した。(家庭)
	進路希望の実現を図る	教育課程の研究 生徒の資質・能力を高める指導方法の研究	【4.4】		・他県の教育課程や大学入試の傾向を研究し、各教科や探究キャリア教育部などと調整を図りながら、現行の教育課程を改善することができた。(研究部) ・来年度に向けて、より良い教育活動ができるよう教育課程が見直されたのは良かった。(外国語)
	計画的なキャリア教育を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓発 企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施	【4.2】	進路指導部 探究キャリア教育部 学年/教科/進路希望調査 学習実態調査/進路結果	・生徒の進路実現に有効と思われる講演会の実施、資料紹介・進路指導室の環境提供等ができた。進路実績も向上して来ている。今後も努めていきたい。(進路指導部)
生徒の自治	自治活動を保障し自治的精神を育成する	【4.3】	生徒部(生徒会) 学年 生活意識実態調査 他	・生徒だけで決めようとする傾向が強かったが、各団体が顧問に助言を求める信頼関係が構築されてきている。(生徒会)	
生活指導	規律ある生活のリズムをつくる あいさつの定着 清掃・保健・交通安全指導	【3.7】	生徒部・保健部 進路指導部 学年・教科	・機会あるごとに、自転車事故・声かけ事案・器物損壊・あいさつについて、注意を呼び掛けている。職員が積極的な対応に努めるよう呼びかけていきたい。(進路指導部) ・本校の自転車用ヘルメット着用率が高いが、ヘルメットを購入していない生徒が大きな事故を起こしてしまったことは残念であった。(生徒部) ・活動時間を守り、特に考査期間は学業に集中するようになってきている。(生徒会) ・ワックスがけ、行事前の清掃を厚生委員中心に行った。(保健部) ・生活実態調査を復活させ、進路実現との相関関係について示すことができた。(進路指導部) ・運動を通して健康を保持・増進させることを理解させ、日々の運動習慣をつけさせる指導を行った。(体育) ・衣食住の生活面での安全について授業で学び、実習で確認した。(家庭)	
	適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる	【3.9】	保健部 教育サポート委員会 学年・教科他	・進路指導において、生徒とのコミュニケーションが不十分であったと思われる事案が複数発生した。よりきめ細やかな対応に努めるよう呼びかけていきたい。(進路指導部) ・カウンセラーと保健部が連絡がとりやすい状況でいた。実施後の担任への報告も行った。(保健部) ・保健部・各学年と連携し、支援の必要な生徒の把握・情報共有を行い、必要に応じて外部機関と連携することで、支援を必要とする生徒へのサポートがスムーズに進むようにした。(サポート委員会) ・授業や実習の中で中々になる生徒の様子が見られた場合には、担任へ連絡するなど早めに対応した。(家庭)	
安心安全な学校	危機管理体制の整備 快適な学校環境の整備を図る 健全な職場づくりの推進 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)	【4.0】	学校衛生委員会 健全な職場づくり推進委員会/生徒部(生活)/事務 生徒厚生委員会 他	・2回の安全点検を行った。引き続き確認を行っていく。(学校衛生委員会)	
開かれた学校運営	保護者との連携を図る	【4.1】	渉外部 教務部 学年	・総会等は無事に実施できたが、様々な要因で、研修会や地区PTAの開催が困難になりつつある。(渉外部) ・7月と12月に面談日を設けて、保護者との情報の共有に努めた。(教務部) ・学年PTA、クラスにより学級PTAを開催することができた。(2学年) ・夏期休業中、年末年始を中心に保護者・生徒面談を行うことができた。(2学年) ・必要に応じて一斉メールを活用できた。(2学年) ・面談や家庭訪問など、家庭との連絡を密に取りながら情報を共有することができた。一斉メール配信システムの学年での活用について、引き続き検討したい。(1学年)	
	開かれた学校をめざす	【4.2】	教務部 学校評価委員会 保護者アンケート 他	・4月と10月にのべ4日間授業公開を行うことで、より多くの保護者や中学生に日常の学校生活を見てもらうことができた。(教務部) ・中学生体験入学には職員全体で関わり、生徒とともに学校を上げて生徒の主体的な姿を中学生や保護者に知ってもらうことができた。(教務部)	
学校の情報化	ICT(情報通信技術)を活用した学習の研究、充実 一人一台端末を活用した学習活動の研究・推進	【4.0】	教務部 施設管理部 研究部	・主に「校長通信」を通じて、情報発信ならびにフィードバックをすることができた。また、生徒会ブログでは、担当生徒がインタビューやアンケート実施などに積極的に取り組み、中学生向けに充実した内容にすることができた。(教務部) ・生成AIを活用して、より柔軟かつ質の高い教材を作成することで、より充実した授業展開を行うことができた。(教務部) ・不登校等生徒対象のオンライン授業を展開するための準備及び職員研修を実施した。また、実際にオンライン授業を実施することで、多様な学習ニーズに対応することができた。(教務部) ・各教室の電子黒板などICT機器の故障に対応、整備を行った。(施設管理部) ・新しいICTツールとして、ロイノートを試験的に導入することができた。今後の利用については、運用結果を踏まえて検討していく。(研究部)	

【教育活動】についての意見・評価

一定の基準・ルールを踏まえた活動計画のコンセンサスが、全職員で得られていないと感じることがあった。

生徒の自治力の低下が懸念される。どのように支援し、伸ばしていけるか。「深志の自治はこういうものであるべき」はさておき、昔のままでは厳しいと思う。

【学校運営】についての意見・評価

なし